煤ヶ谷駐在所

厚木警察署
煤ヶ谷駐在所
編集＊渡部
TEL 046-223-0110

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の警備にご理解とご協力を！！

いよいよ今年は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。　また、今月から、東京2020オリンピック聖火リレーが福島県よりスタートし、県内は、6月29日（月）から7月1日（水）までの3日間をかけて通過します。

本大会は国際的に大きな注目を集めて開催される行事であることから、テロやサイバー攻撃が発生する可能性は否定できません。県警察では、県民生活の安全・安心と大会の安全かつ円滑な開催を確保するため諸対策を推進していますので、皆様の御理解と御協力をお願いします。

○　2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会及び東京2020オリンピック聖火リレー期間中は、大会会場や通過コース等の周辺道路の混雑が予想されます。大会の円滑な開催と観客等の安全を確保するため、交通規制が行われますので、公共交通機関を利用するなど、交通総量の抑制に御理解と御協力をお願いします。

○　皆様からの情報提供が、テロ等を未然に防ぐ大きな力となりますので、不審な人物、不審車両（物）等を見掛けたときは、110番又は近くの警察署、交番、駐在所まで御連絡ください。

少年の非行・犯罪被害防止と有害環境の浄化

～少年の非行・被害防止は家庭と地域の絆から！～

春休みから新年度にかけて、子供たちは進学や進級、就職といった節目を迎える時期となりますが、これに伴って生活環境も変わる時でもあり、非行により検挙・補導される少年が増える可能性があるほか、スマートフォン等を買い与える時期等からも、SNS等の利用をきっかけとした凶悪事件への発展や児童買春・わいせつ行為等の性犯罪の被害が懸念される時期でもあります。

県警察では、将来を担う子供たちを非行や犯罪被害から守る活動を推進していますが、この活動をより効果的なものとするためには、警察だけでなく家庭や地域の皆様の御協力が不可欠です。

みんなで声をかけ合い、地域ぐるみで少年の非行や犯罪被害を防止するための活動を推進していきましょう。

生活環境が変化する時期は少年による犯罪や被害が増える可能性があります！

○　子供たちは、友人関係の付き合い等周囲に影響される傾向が多くみられ、進級時期等に周囲の環境が変わり、非行グループに引き込まれたり犯罪の被害に遭う危険性が高くなるおそれがあります。

○　交友関係が変わり、付き合い等からお金に困り、万引きや恐喝等の非行に走る危険性が高くなります。

事件記録板

１月中旬から２月中旬までの事件は、
侵入盗などの事件の発生はありませんでした。

○　既に広報中の工具や農機具の盗難ですが、今後も発生する事が予想されます。鍵の掛かる場所に保管し、鍵も必ず掛けるようお願い致します。また特殊詐欺も村外の発生ですが、未だ発生しています。どうか騙されないようご注意ください。

○　煽り、煽られ運転が、全国的に問題となっていますが、車間を開けたり、道を譲るなどでトラブル回避してください。

駐在所の独り言　～親力を発揮して、子供に正しい道に導いて！！～

最近読んだ印象にある本を紹介します。まるでサスペンス小説のようでした。タイトルは、「でっちあげ、福岡「殺人教師」事件の真相」です。内容は２００３年、実際に福岡で発生した教師による「いじめ」で、新聞、週刊誌、ワイドショーに取上げるられる大きく話題となった事件です。浅川裕二君（仮名）小４が担任から「死に方、教えたろか」と自殺を強要されたり、「お前の血は、アメリカの血が流れいるんだよ、汚れている」などと罵ったり、耳を引っ張ったり、突き倒したり、悪魔のような暴言暴力、人種差別とも思われる許し難い事件です。そして裕二君はPTSDになり、長期入院（約半年）に追い込まれるのです。しかし民事裁判が始まると、裕二君や母親和子（仮名）が語っていた内容がどうも辻褄（つじつま）が合わなかったり、現実的にあり得ない状況だったり、話が転々と変わる事から、弁護士は何か変だぞ、もしかしたら、全て嘘ではないかと疑い、母親和子に一点に絞り込み、一つひとつの嘘を暴いていくのです。マスコミは、悪者を１人に絞り込んで決めつけ、調べる事もせず、ストーリーを作り、思い込みだけでバッシングする。また母親の高圧的なクレームで、校長、教職員や教育委員会は、怯んでしまい、杜撰（ずさん）なアンケートだけで、それ以上追及すらしない。周りの人は、関わりたくないという姿勢から、教師に監視役を付けて問題視し、１人の責任にして半年の停職という懲戒処分にし、身分も信頼も失墜させ、どん底に突き落としたのですね。あれほど大々的に取り上げ、祭り上げたマスコミは、裁判の判決を取り上げる事もなく、教師の名誉の回復される事もないんですね。母親の嘘が、また嘘をつく子供をつくり、またこの嘘が周りを困惑させ、他人の人生をも崩壊させるという事が現実としてあるんですね。親がしっかりしていれば、このような事件が発生せず子供に嘘をつかせる事もなかったと言う事なんですね。弱者だとか、加害者だとかの先入観や偏見をなくし、再び悲惨な事件が発生する事がないよう、今後クレームにも恐れず誰もが真実を語れるよう、客観的に判断出来たらと願うばかりです。因みに、こうした感情や意見に流される事なく客観的に判断するプロセスを「クリティカルシンキング」と言います。